

第20回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	平成29年12月12日(火) 午後3時～午後5時	
2	場所	蒲郡市役所 本館 303会議室	
3	出席者	委員 愛知工科大学機械システム工学科教授 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 委員 愛知運輸支局 委員 愛知県交通対策課 委員 総代連合会会長 委員 総代連合会副会長 委員 総代連合会副会長 委員 形原地区公共交通協議会 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 委員 蒲郡市老人クラブ連合会 委員 蒲郡市社会福祉協議会 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 委員 蒲郡商工会議所 委員 蒲郡市観光協会 委員 名鉄バス東部株式会社 委員 豊鉄タクシー株式会社 委員 株式会社かね一自動車 委員 名古屋鉄道株式会社 委員 公益社団法人愛知県バス協会 委員 愛知県タクシー協会 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 委員 愛知県蒲郡警察署 委員 東三河建設事務所 委員 蒲郡市長 委員 蒲郡市総務部長 委員 蒲郡市企画部長 委員 蒲郡市市民福祉部長 委員 蒲郡市建設部長 委員 蒲郡市産業環境部長 委員 蒲郡市都市開発部長 事務局 蒲郡市交通防犯課長	村上新 松本幸正 (欠席) 岡田英雄 桑原良隆 (代理 山田浩之) 岩瀬雅史 (欠席) 牧原正次 牧野満文 壁谷権一郎 金沢孝一 松本久乃 金原久雄 朝比奈あけみ 小池高弘 (代理 佐藤康彦) 杉山和弘 (欠席) 近藤博之 浅野丈夫 天野一美 河合貴夫 (欠席) 古田寛 (代理 小林祐之) 山田透 (欠席) 白井淳 肥田尚幸 柴田厚 稲葉正吉 壁谷勇司 大原義文 竹内仁人 大場昭佳 吉見和也 鈴木成人 竹内正樹

蒲郡市交通防犯課長補佐

松井英樹

蒲郡市交通防犯課主事

鎌田司郎

蒲郡市交通防犯課主事

井本博子

地域公共交通網形成計画推進事業受託事業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 1名

4 傍聴人 8人

5 議題

(1) あいさつ

6 報告事項

(1) 名鉄西尾・蒲郡線利用状況等について・・・【資料1-1、1-2】

(2) 形原地区支線バス利用状況等について・・・【資料2】

(3) 形原地区支線バス運休日の変更について・・・【資料3】

(4) 中間評価アンケート結果について・・・【資料4-1、4-2】

7 協議事項

(1) 形原地区支線バス事業継続について・・・【資料5-1、5-2】

(2) 蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』の見直しの必要性について
・・・【資料6】

(3) 形原地区支線バスルート・ダイヤの変更について・・・【資料7】

(4) 地域公共交通確保維持改善事業補助金にかかる自己評価について・・・【資料8】

8 その他

(1) 夏休み小学生50円バスの実施結果について・・・【資料9】

9 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が25名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び地域公共交通網計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長、稲葉正吉より、本日は利用状況などの報告事項4件、形原地区支線バスの事業継続やルートダイヤ変更など議案4件を予定している。交通空白解消のために事業を開始したあじさいくるりんバスを試行運行しているが、利用者数は増加傾向にあり、本格運行の要望書も地域から提出されている。蒲郡と地域、事業者と連携しながら事業推進していきたい。委員の皆様には忌憚のないご意見と頂戴しつつ、また、事業推進に対してご協力を賜りたいとのあいさつがあった。

(2) 報告事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

ア 名鉄西尾・蒲郡線利用状況等について

- ・ 事務局より資料1-1、1-2に基づいて報告が行われ、市民まるごと赤い電車応援団団長よりこれまでの皆様の協力への感謝と今後の取り組みについてご発言いただいた。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 昨日、名古屋大学加藤博一先生による地方鉄道についてセミナー・トークバトルが開催され参加した。そこでいくつかの鉄道事業に関する利用者増の事例の報告があった。
- ・ 3者の協力が大切で、3者とは、地域、行政、事業者の協力が重要との報告だった。ローカル鉄道の議論だったが、名鉄西尾・蒲郡線についてもあてはまるのではないかと思ひ発言した。

イ 形原地区支線バス利用状況等について

- ・ 事務局より資料2に基づいて報告が行われた。

[質 疑]

なし

ウ 形原地区支線バス運休日の変更について

- ・ 事務局より資料3に基づいて報告が行われた。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 交通事業者のかねー自動車から変更届を受理している。重要事項であれば法定協議会での協議が必要だが、運休日の変更、運転手の生の声を反映した利用促進なので、事後報告での対処とされた。
- ・ バス停留所と車内での周知は理解できるが、その他PRとしてホームページ等でもしていただきたいがどうか。
(委 員)
- ・ 町民に対しての周知徹底方法として回覧があるが、形原地区協議会の中の協議として、今回は利用している人たちを優先にすべきだと考えた。回覧板は間に合わないので、口コミでの対応とした。こうした地域での協議による結果があるので承知していただきたい。

エ 中間評価アンケート結果について

- ・ 事務局より資料4-1、4-2および資料8該当部分に基づいて報告が行われた。

[質 疑]

なし

(4) 協議事項

ア 形原地区支線バス事業継続について

- ・ 事務局より資料5-1、5-2に基づいて説明が行われ、平成30年度以降の事業継続について全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 資料6の収支率2割について。赤字表記部分について、最近の数字では、運転手不足や燃料の高騰などで経費が高くなっている。運賃が101~200円のケースでも収支率10%以下が30.1%の割合で最も多く、管内事業全体の収支率は悪くなっている。
- ・ 収支率2割は非常に高い目標で、高みを目指している状況になっていると言える。
- ・ 収支率だけでなく、利用者が増えていることなども含め総合的に勘案して評価いただきたい。収支率の数字は社会情勢が変わってきたことを認識いただきたい。

(委 員)

- ・ 収支率に対する発言があったが、形原地区協議会を開催し、この点について意見交換した。収支率20%の達成は、今の運行条件では無理だと思う。助手席まで座っていただくのは難しいので乗車数は8人となる。今の便当たりの平均乗車人数が5.5人なので、高い水準にある。8人フルに乗車の場合で収支率は22%となり、20%の達成は、非常に難しい水準。協議会としては、今の水準が限界ではないかとの声があった。
- ・ 20%を目標とするよりも、現状の数値を基準として頑張りたい。高い水準は意味がないとの発言もあった。達成するには、運賃を変えるしかない。広告収入の制度を変えるしかないと思う。

(委 員)

- ・ 蒲郡市は地域公共交通網形成計画を策定して進めている。
- ・ 国としては、交通網形成計画の意味として、ネットワーク化を進めることが重要だとしている。鉄道と路線バスを幹線として位置づけ、フィーダーをつなげる。フィーダーは枝の部分。鉄道につなげた枝を継続することがネットワークを維持することにつながる。そうしたネットワークの面からも協議して頂けるとよい。
- ・ 加えて、今後の事業者を選定する際に、プロポーザルで選定するとの説明があったが、安価という点だけではなく、輸送の安全等も配慮して事業者を選定してほしい。

イ 蒲郡市地域公共交通事業の推進に係る行動『指針』の見直しの必要性について

- ・ 事務局より資料6に基づいて説明が行われ、再度、事務局にて見直し案を作成し、公共交通会議にて協議を行うこととなった。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 形原地区協議会による熱心な取り組みにより形原地区支線バスは運行されている。こうした熱心な状況を確保するのは難しく、その他の地域では非常に悩まれている。

収支率をしっかりと評価することは大切だが、地域の頑張りを確認することが重要。

- ・ 収支率の水準も設定された当時は2割の事例が多かったが、最近ではもっと悪くなっているのだから、基準を見直ししても良いのではないかと思う。達成が難しい数字を設定しておくのはどうか。

(委員)

- ・ 応援いただく発言をいただきありがたい。我々は努力をしないとは言っていない。
- ・ 自動車免許の自主返納が増えてきている。女性が多い。男性はプライドがあり返納は少ない。我々は、免許返納者に対して回数券を提供して利用を促進したい。収支率について、今の状況を町民は知らない。町民への説明もしづらい。収支率よりも生活の足として使ってほしいという説明をしていきたい。鉄道駅について、鹿島駅の降車利用が増えてきている。電車の接続も増えているとの感触を得ている。こうした取り組みを理解いただきたい。

(委員)

- ・ 収支率2割は絶対達成できないのか。数字での評価だけでなく、定性的な評価もある。交通ネットワーク、鉄道との接続、利便性の向上など、数字で表せない評価もある。そうした指摘を盛り込んだ、総合評価を行えばよい。
- ・ 収支率を仮に1割にしても、1割を達成できなかったらどうなるのか。難しいかもしれないが、2割の目標を定めておく。利用者アンケート調査結果でも財政投入とサービス水準の設問に対して、空欄・回答できないという意見が多数あり、そうしたことを確認しながら、総合的に判断しておくべきではないか。

(委員)

- ・ 本日は、見直しの必要性を確認するという点でよい。委員の中には、収支率を2割としておくべきとの意見もあった。見直しの必要性を着目点として考えるためには、運輸局から管内の実情について資料提示をさせていただき、学識経験者の意見を含めて改めて協議していただきたいと思う。

ウ 形原地区支線バスルート・ダイヤの変更について

- ・ 事務局より資料7に基づく説明、生活交通確保維持改善計画の変更申請等対応の事務局への一任の提案が行われ、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 停留所の位置について、駐車場の中に入るルートになっている。ここは、時間帯によって、自動車がいっぱいとなり、停車が問題とならないか。冬は寒いところなので、人が行かないのではないか。

(委員)

- ・ かたはら児童館の新設は、意見箱に設置要望があった。蒲郡市内の児童館の利用を比較すると、かたはら児童館は他に比べ少ない。形原小学校の生徒は利用するが、形北小学校の生徒の利用が少ない。双太山公園に近い場所でもあり、子供と親の親子利用を期待したい。土曜日や夏休みの駐車は多いことは理解しているが、運転手の技術

でうまく対処できると思う。通行の妨げにならないように運行できると思う。

(委員)

- ・ かたはら児童館の新設については、私は双太山公園の近くに住んでいる。かなり広い駐車場で、駐車場がいっぱいになることはないと確信している。
- ・ 運転手も安全に運転できる。

(委員)

- ・ 発言を聞いて安心した。双太山公園は本当に立派。子供達は行きたがる場所。冬場は利用が少ないからといって廃止しないでほしい場所である。

(委員)

- ・ 廃止するバス停について、若干の利用者がいる状況ですが、利用者がわかっているお知らせできるのか。是非知らせて欲しい。
- ・ 運転手の労働時間、休憩時間についても短縮化されるから問題ないと考えられる。

(委員)

- ・ 廃止バス停の利用者は分かっている。廃止バス停のすぐ近くに形原神社などの停留所もあり、そちらの移動で十分対応できる。廃止については、対象地区の総代にも了解もらっている。影響はないと理解している。

(委員)

- ・ 本日の交通会議承認後、申請いただければ、対処する。料金の変更もない。早めに申請いただければと思う。

エ 地域公共交通確保維持改善事業補助金にかかる自己評価について

- ・ 事務局より資料8に基づく説明が行われ、指摘部分について事務局にて修正を行い、修正内容については会長および座長に一任するとして承認された。

[委員]

- ・ 中部様式については、第三者評価委員会にて、自治体より5分の説明を受けて、アドバイスをさせていただく。様式資料については、簡潔にさせていただきたい。8頁にまとめる。
- ・ 村上先生と運輸支局と調整をさせていただくことを前提に、簡潔な整理をお願いしたい。例えば、1頁は過去のこともあるが、最近のを中心に整理し、ボリュームを少なくしたい。国の様式については、B評価とした、利用者が少なかったことの理由を加えて欲しい。

(5) その他

ア 夏休み小学生50円バスの実施結果について

- ・ 事務局より資料9に基づいて説明が行われた。

イ その他

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は3月23日予定との連絡を行い会議は終了した。